

書面会議におけるご意見と市の考え方

◆肯定意見

No.	意見	市の考え方
1	「高齢者買物移動支援事業」として本年1月より槇島町（紫ヶ丘地域）にて病院送迎車輛を活用した実証運行が実施されました。今般その実証運行の現状報告書面等を拝読させて頂き関係者各位のご努力に対し敬意と感謝を申し上げたいと思います。 2年前に策定された宇治市の目指すべき交通体系である「市民・事業者・行政の三者協働による調和のとれた持続可能な公共交通の構築」そのものの具現化が今回の事業であったと思います。高齢化の進展による諸課題（買物・病院・交通等）は宇治市においても山間部のみならず都市部においても顕在化するものと考えられます。そうした現状の中で今回の事業が8月以降も継続されるとの事ですので安堵しております。 今回の検証結果をふまえてよりよい事業に展開することを期待しております。	本事業は、地域と病院による助け合いの取組の中で継続していくものと考えており、引き続き関係者との連携を図りながら、安全・安心な運行に努めるよう状況を見守ってまいりたいと考えております。
2	地域をよくしていくためには、まずは試してみること、その結果を次に繋げていくことが重要と考えており、今回の実証運行の結果、高齢者の買い物移動支援としての新たな事業が定着できたことは良いことと考えている。	本市といたしましても、福祉部局と連携して取組を進めていく中で、高齢者の買物支援のための必要最小限の移動手段が確保され、住民の安心感の醸成にも繋がったことは、新たな事業に取り組んだ成果であると考えております。
3	実証運行開始の段階でターゲットが明確に定まっていたため、買い物の移動手段が必要な高齢者の需要数を把握できたと考えられる。今回の対象地域である槇島町紫ヶ丘地域は地形が平地であるため、このような結果となったが、丘陵地の地域では違う結果が出てくると考えられる。	実証運行の結果、高齢者を対象とした運行内容では需要が少なく、公共交通の導入にすぐさま繋げることは難しいと考えております。地域ごとに地形や取組状況など実情が異なるため、引き続き公共交通体系基本計画に基づき、地域との協働による施策展開を検討してまいりたいと考えております。

◆交通事業者意見

No.	意見	市の考え方
4	実証運行の結果、需要も少なくバス運行に影響がないため、運行継続については問題ない。	高齢者の買物支援のための必要最小限の移動手段確保を目的として、高齢者施策の中で事業を継続していきます。
5	人口減少が進む中、新たな移動手段の確保については、既存のバス路線を基幹路線として、そこまでを繋ぐ形で交通ネットワークを検討していくのがよいと考えられる。	地域に必要な移動手段につきましては、駅やバス停などの交通結節点までの確保を前提として、引き続きタクシーの効果的な活用方法を検討していきたいと考えております。
6	本事業によるタクシー需要への圧迫はみられず、反対にスーパー万代から自宅までの帰りのタクシー利用が増加しており、事業開始によって荷物がある際の新たな需要が発生したと考えられる。	今後も高齢者施策として事業を継続する中で、タクシーの混乗利用などの公共交通の活用も視野に入れながら運行状況を見守ってまいりたいと考えております。

◆情報提供

No.	意 見	市の考え方
7	現在も運転士が不足しており、運転士1人当たりの労働時間が長時間となっている状況にある。今後、2024年の労働条件の改善により拘束時間の短縮及び休息期間の延長が行われることから、人材確保に努めている。	本市といたしましては、運転士不足の問題に対しても、まずは運賃収入を確保していくことが重要と考えており、引き続き利用促進をはじめとする利用者確保に向けた取組を進めてまいります。
8	コロナ禍の対応として、タクシー会社の多くが配車台数を減らしたが、現在も当時の配車台数には戻っていない状況にある。	コロナ禍や原油価格高騰の影響に対しては、これまで臨時的な支援を実施させていただいており、引き続き社会情勢を踏まえて対応を検討してまいりたいと考えております。